

Q6：英語活動の指導形態はどのようなものがありますか？

A：英語活動は、学級担任が中心となって進めるのがもっとも望ましいと言えます。また、英語活動はALT（外国語指導助手）、JTE（日本人英語教師）や、地域人材講師とTTで行われていることが多く、効果的な指導形態といえます。TTを行う場合であっても、イニシアティブをとるのは、学級の実態を一番よく知っている学級担任です。

それでは、それぞれの教師が、どのように指導に当たることが望ましいかをまとめてみます。

1 HRT（学級担任）

(1) 担任が中心となって

HRTが立てたプランでHRTが中心となって指導したい内容を進めていくことが大切です。本時のねらいに向かって授業をコントロールしましょう。

(2) 児童の実態を踏まえて

学級の実態を一番理解している学級担任は、児童の実態、その日の様子、状況に合わせて指導に当たります。たとえば、普段の授業でとてもおとなしい児童が、ALTと目を見て会話を続けていたら、たとえ恥ずかしそうにやっていたとしても、その進歩を認めてあげることが大切です。また、本時のねらいに沿って、児童の名前を出しながら具体的な姿を認めていくことを大切にしたいものです。このような教師の具体的な認めが自信となって次への意欲につながっていきます。こうして徐々に児童のコミュニケーションに対する意欲や関心が高まっていくことでしょう。

(3) 学習者のモデルとして

学級担任は、学習者のモデルとして活躍したいものです。児童の反応を引き出す糸口となることもあります。たとえ英語が堪能でない学級担任でも、英語を使って何とかALTとコミュニケーションをしようとする姿は、児童にとって、非常に励みとなり、児童の意欲を喚起します。

2 ALT（外国語指導助手）

(1) 児童が自然に英語に慣れ親しむことができるように

ALTの発音を児童がたくさん聞くことは、自然に英語に慣れ親しむ上で重要なことです。しかし、とにかく何でも児童に話せばよいというわけではありません。児童が英語を聞いていて、おおよそわかるような簡単な英語であることが大切です。

(2) 児童に英語を話す時のポイントとして

児童に英語を話す時のポイントは、ALTの話す英語の中に児童が内容を少しでも理解できるようなヒントがあるということです。それは、実物であったり、写真や絵であったり、今までに聞いたことのある易しい英語であったりします。また、児童に、それらのヒントの中から話の内容を推測しながら理解する力を育てることも大切です。児童は、一生懸命話を聞いて内容が理解できたとき、分かった喜びを味わうことができるのです。

(3) いろいろな場面で自然に英語を

A L Tは、本時のねらいにそって、児童に英語を効果的に話すことが望まれます。単にキーセンテンスをリピートするのではなく、いろいろな場面でその場に合った英語を自然に話すことにより、児童の中に自然な英語が効果的にインプットされます。A L Tの自然な英語での反応も児童にとっては目に見えない効果があります。

(4) 評価について

A L Tは、児童の技能的な面（発音や強弱やイントネーションなどの音声面、多様な表現等）を評価する役割を担います。A L Tに英語で誉めてもらうことで児童は大変自信をもつものです。

(5) 異文化に触れる体験として

A L Tと接すること、A L Tの英語を聞くこと、A L Tの持ってきた教具等の全てが児童にとっては、異文化に触れる体験となります。

3 J T E（日本人英語教師）

地域人材講師

(1) H R Tの授業進行の補助として

H R Tが効果的に授業を進めていくことができるように指導の補助をします。授業中にA L Tの英語を逐一訳す必要はありません。J T Eや地域人材講師が訳してしまうと、児童はA L Tの話を英語で理解しようとしなくなってしまうのです。J T Eや地域人材講師はA L Tの英語をさらに簡単な英語に言い換えたり、絵を描いてヒントを示したりして、A L TとH R Tや児童の間の橋渡しをすることが大切な役割です。また、A L Tが授業に参加しないときは、A L Tの代わりとしてその役割を果たすとよいでしょう。

(2) 児童のコミュニケーションの相手として

H R Tや仲間とのコミュニケーション以外に、いろいろな人とコミュニケーションをしたり、ともに活動したりすることは、児童の学習意欲を高めることにつながります。

また、T Tで授業を行うことにより、より多くの児童が教師や講師と実際に会話を行うことが可能になります。その時、J T Eや地域人材講師が、本時のねらいに基づいて、一人一人の児童のよい姿や伸びを積極的に認めることを大切にしたいものです。教師や地域人材講師からの具体的な認めや励ましは、児童の自信や活動意欲の向上につながります。